

平成 26 年度 ひきこもり対策推進事業委託業務

# ひきこもり対策推進事業 状 況 報 告 書

公益財団法人北海道精神保健推進協会

はじめに

当財団では、平成 21 年度から「ひきこもり対策推進事業」を北海道より受託し『北海道ひきこもり成年相談センター』を設置し、第一相談窓口としての機能を果たすとともに、関係機関とのネットワーク構築及び一般市民に対する普及啓発を行ってきた。

相談開始以来、年々相談者は増加しており、ひきこもりに関する関心度の高まりや「相談できる場所」として認知されてきていると感じている。

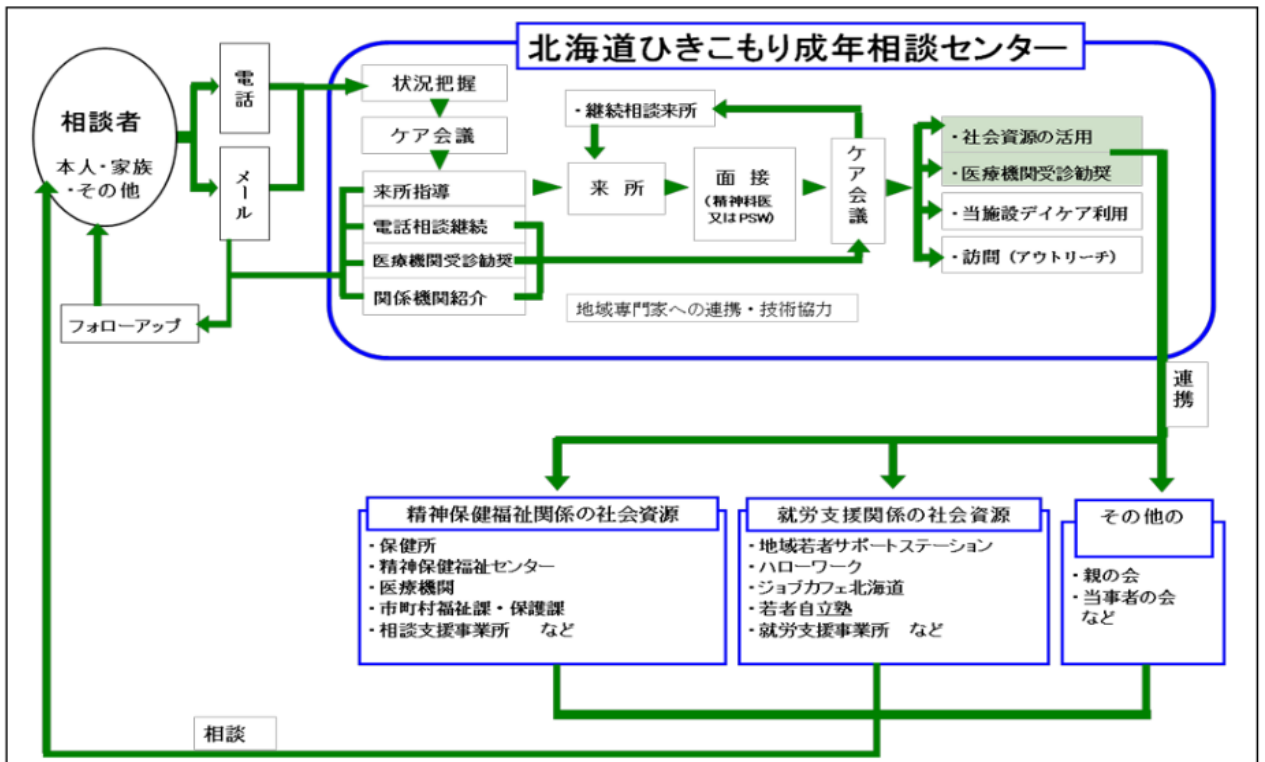
一方で、過去にいくつかの機関に相談はしたものの、状況に大きな変化がなくそのまま経過し、疲弊しているケースもあり、“長いひきこもりに苦慮している道民”もいることを実感している。

ひきこもり相談においては、一つのケースに複数の問題が重複しているなど複雑かつ困難なケースも多数存在し、状況に応じた多様な支援の手段が必要である。

ひきこもりに対する支援は、年単位にわたる長期の支援が必要になる覚悟を持ち、各ケースのペースを尊重しつつ、動きだすタイミングを待ち、支援を途切らせずに取り組むことが必要と考えている。

具体的な実施状況は次のとおりである。

図 1 相談支援の流れ



## 1. 相談支援実施状況

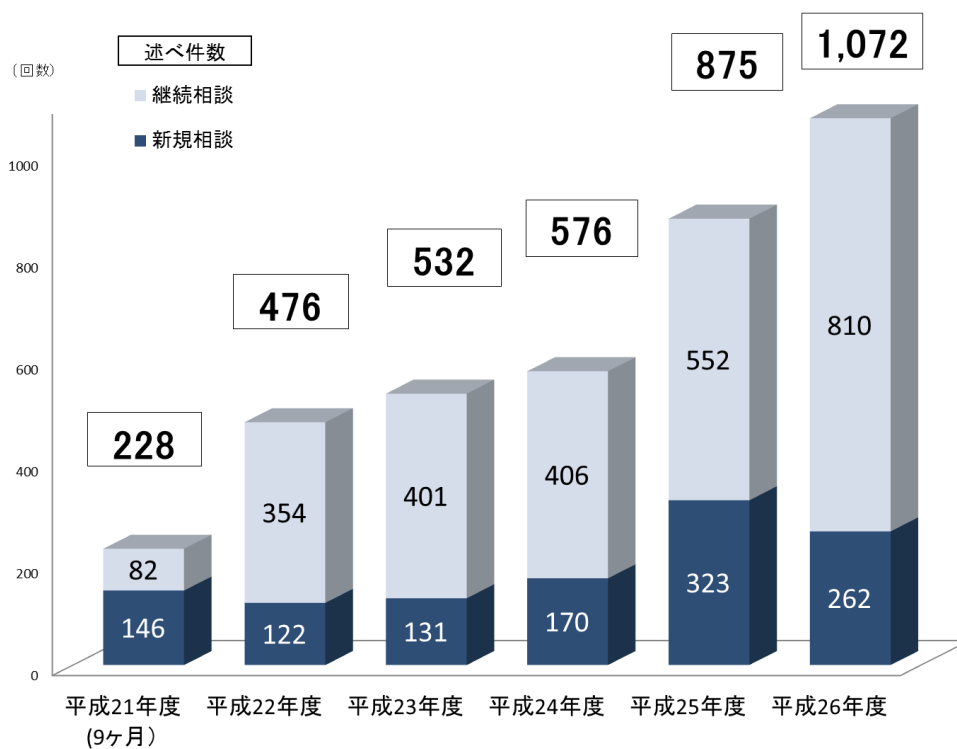
当施設では、平成21年7月1日からひきこもりの相談事業を開始している。  
平成26年度の支援実績は以下のとおりである。

### (1) 相談支援件数

ア. 相談件数 (単位:回)

相談件数計	1,072
新規相談	262
継続相談	810

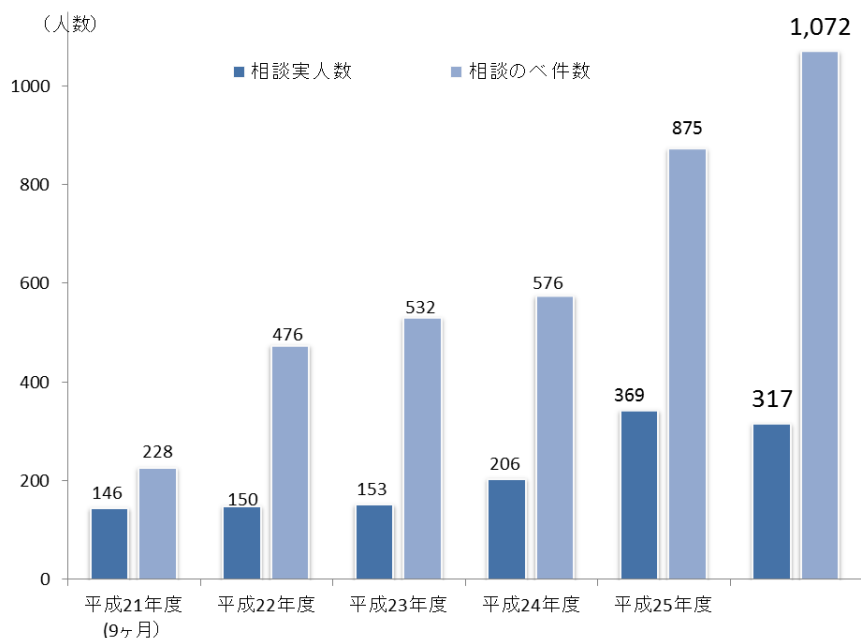
図2 相談件数の推移(年度別)



○当年度の相談件数は、1,072件であり、平成21年度より相談述べ件数は毎年増加している。  
新規相談者は今年度262名であった。

## イ. 相談者数

図3 相談延べ件数と実人数（年度別）



○平成21年度から平成24年度までの相談実人数は150名程度であったが、平成25年度より相談実人数が300名を超えている。

（※相談実人数は、新規相談者に加え、前年度から継続している者も含まれる。）

## ウ. 相談方法

（単位：回）

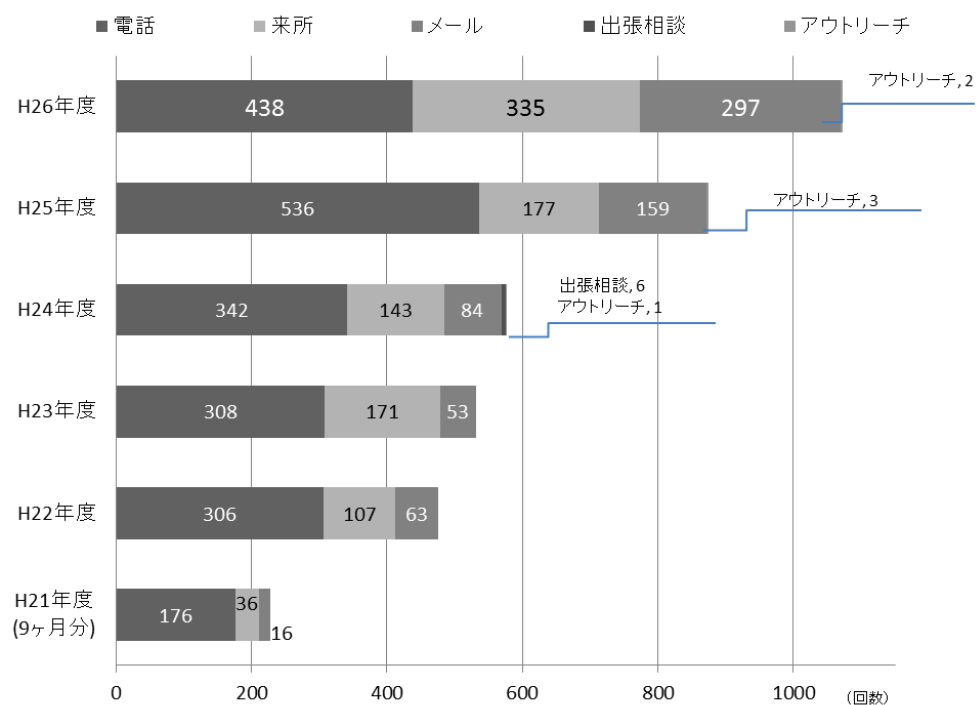
	新規相談	継続相談	計	構成比 (%)
電話	235	203	438	38.9
来所	12	323	335	29.7
メール	13	284	297	26.4
アウトリーチ	2	0	2	0.2
小計	262	810	1,072	
連携	—	40	40	3.5
ケア会議	—	15	15	1.4
小計	0	55	55	
計	262	865	1,127	100

（※相談方法に連携、ケア会議を含む）

（※アウトリーチには関係機関を訪問して実施した検討会を含む）

○主な相談方法は「電話」による相談である。電話相談後、来所相談につながっている。

図4 相談方法別件数（年度別）



エ. 相談時間

相談方法別相談時間区分件数

(単位:回)

	0～ 15分未満	15～ 30分未満	30～ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時:分)	平均 所要時間
電話	147	119	119	53	438	190:02	26分
来所	0	8	17	310	335	410:35	1時間13分
メール	130	67	83	17	297	105:45	21分
アウトリーチ	0	0	0	2	2	2:50	1時間25分
連携	23	10	4	3	40	13:38	20分
ケース検討	1	4	5	5	15	10:10	40分
計	301	208	228	390	1,127	733:00	39分

(2) 電話相談

延べ回数	実人数 (注)
438 回	277 名

(3) 来所相談

延べ回数	実人数 (注)
335 回	101 名

(4) メール相談

延べ回数	実人数 (注)
297 回	29 名

複数の相談方法をとる人がいるため、  
(注) 電話相談、来所相談及びメール  
相談の実人数の合計と 26 年度相談  
実人数とは異なる。

※延べ回数はメール受信及び返信の回数

(5) アウトリーチ

延べ回数
2 回

○平成 26 年度では関係機関に向けたアウトリーチによる相談支援を 2 回実施した。

(6) 連携状況

(単位:回)

連携先	件数	構成比 (%)
医療機関	14	35.0%
保健所	9	22.5%
若者支援総合センター	3	7.5%
ひきこもり支援団体	3	7.5%
市役所・役場	2	5.0%
相談支援事業所	2	5.0%
障害者就労支援センター	2	5.0%
地域若者サポートステーション	1	2.5%
障害者生活支援センター	1	2.5%
生活介護支援事業所	1	2.5%
精神保健福祉センター	1	2.5%
生活・就労支援センター	1	2.5%
計	40	100.0%

(7) 相談者の状況（新規初回相談）

ア. 相談者内訳 (単位:回)

	件数	構成比 (%)
本人	61	23.3
父・母	135	51.5
兄弟姉妹等	21	8.0
その他	45	17.2
計	262	100

○主な相談者は「父・母」や「本人」であり、全体の73.2%をしめる。

○「その他」は、関係機関職員、祖父母等の親族、知人などからの相談であった。

イ. 相談方法別相談者内訳 (単位:回)

	電話	来所	メール	アウトリーチ	総計
本人	52	2	7	0	61
父	28	1	3	0	32
母	96	4	0	0	100
両親	0	3	0	0	3
兄弟姉妹等	20	0	1	0	21
その他	38	3	2	2	45
計	234	13	13	2	262

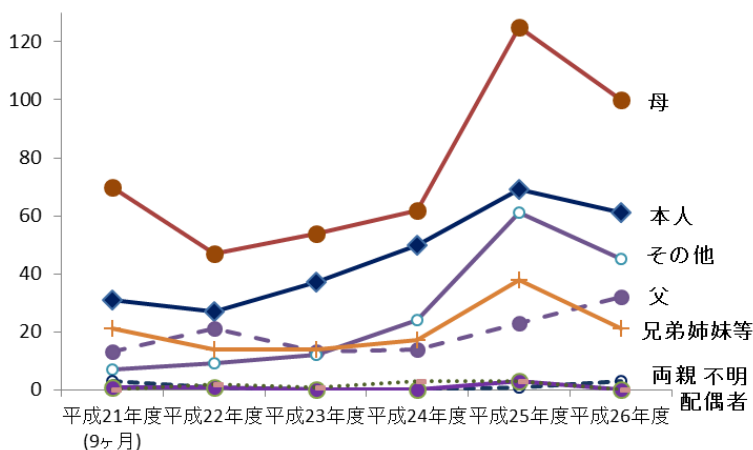


図5 相談者内訳の推移 (年度別)

○平成21年度以降、「母親」からの相談が多い。父親からの相談も徐々に増加している。

## (8) 当事者の状況

### ア. 当事者の年齢

(単位：人)

	男	女	不明	計	構成比(%)
20歳未満	16	3	0	19	7.3%
20歳以上～29歳未満	64	18	0	82	31.3%
30歳以上～40歳未満	45	21	1	67	25.6%
40歳以上～50歳未満	34	8	1	43	16.4%
50歳以上～60歳未満	1	0	0	1	0.4%
60歳以上	1	2	0	3	1.1%
不明	13	11	23	47	17.9%
計	174	63	25	262	100%

○「20代」が82名(31.3%)と「30代」が67名(25.6%)を合わせて、56.9%となり、ひきこもり当事者の半数以上を占める。

○最少年齢は14歳、最高年齢は77歳(注)となっており、男性の平均は30.6歳、女性の平均は32.1歳、全体平均は31.1歳であった。

○「不明」には、問い合わせなどで当事者が確定しない相談が21件あった。

(注) 最高年齢者は、本人が新聞記事を見て問い合わせがあったケースであり、医療に対する相談であった。

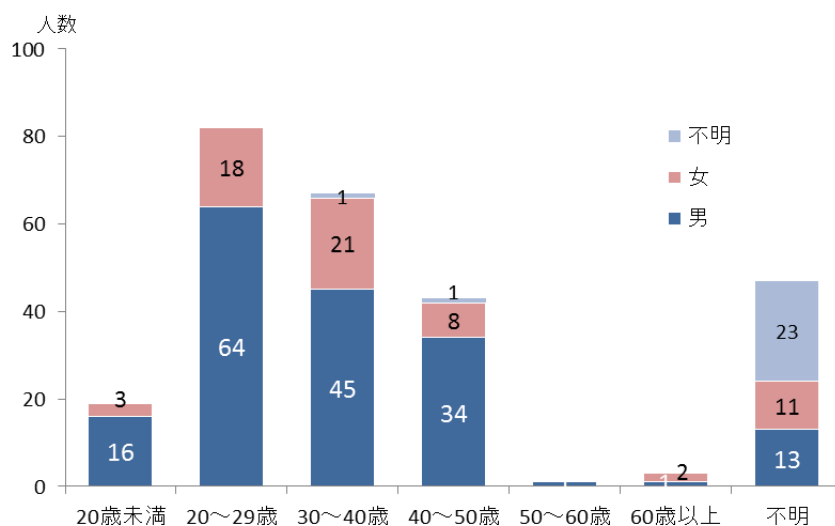


図6 当事者の年齢区分・性別状況



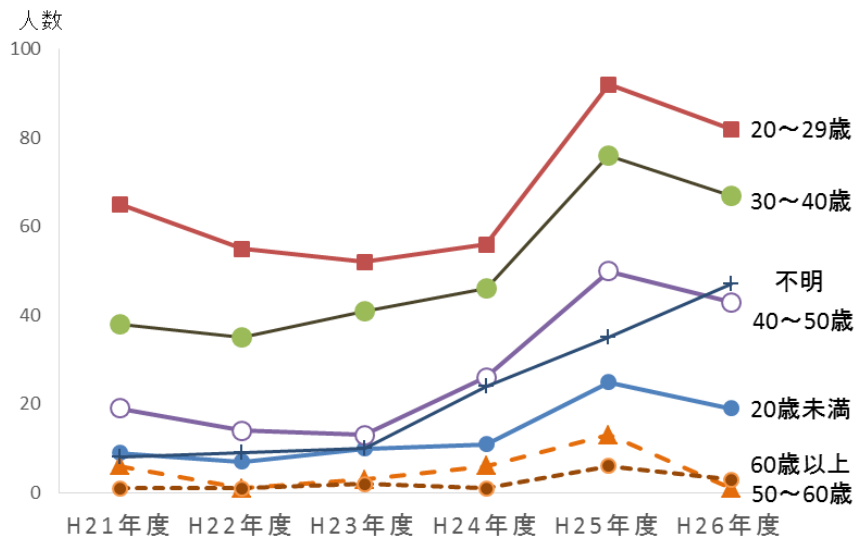


図7 当事者の年齢区分別相談件数（年度別）

イ. 当事者の居住地

（単位：人）

圏域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
石狩	12	19	12	18	16	15	10	15	8	10	11	15	161
（うち札幌市）	(9)	(15)	(10)	(17)	(12)	(14)	(10)	(10)	(6)	(9)	(8)	(7)	(127)
後志	1	1	1						1				4
空知	1		3			2	1		1		2	1	11
胆振	2	1		1		1		1		1	1		8
日高	1		1							2	1		5
渡島				1							1		2
上川		2		3	2		2	1	2	2	2	1	17
留萌											1		1
オホーツク					1		1	1					3
十勝					2			1					3
釧路		1								1			2
道内(札幌市外)					1				1			1	3
道外	1	1	2	1		1				1	1		8
不明	3	3	4	5	2	3	2	3	3	4	1	1	34
計	21	28	23	29	24	22	16	22	16	21	21	19	262

○平成 26 年度の相談のうち約 4 割は道民からの相談である。石狩圏域からの相談者は 161 名(61.5%)で、うち 34 名が道民であった。

○渡島圏域、釧路圏域など遠隔地を含め全道各地から広く相談が寄せられている。

○「不明」には、問い合わせなどで当事者の居住地が確定しない相談が 15 件あった。



図8 当事者の居住地

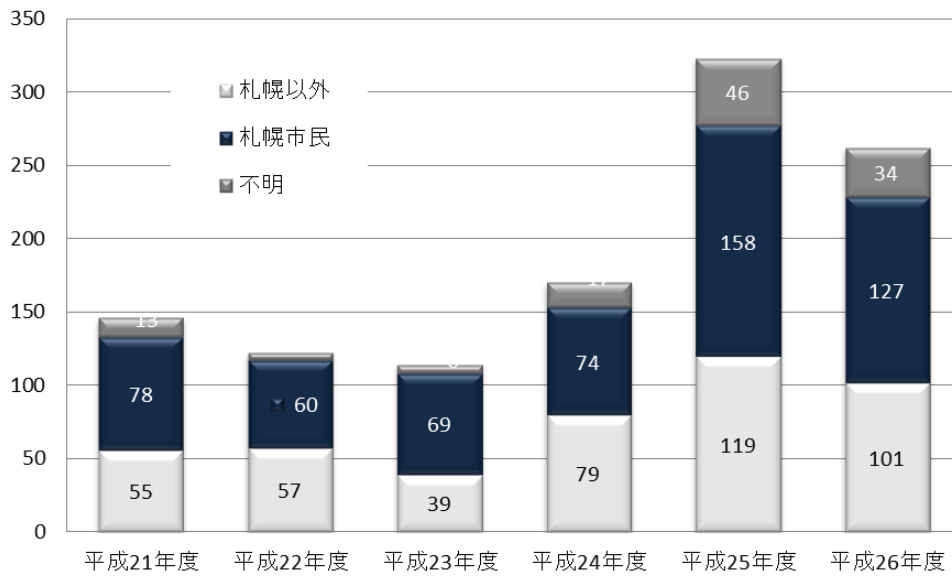


図9 当事者の居住地（年度別）

## (9) 相談目的

相談目的別件数（年度別）

（単位：件数）

内容	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	構成比(%)	計
関わり方について	62	53	45	56	75	56	21.4%	347
話を聞いてほしい					29	48	18.3%	77
来所相談の希望					36	43	16.4%	79
今後の生活の仕方について					30	38	14.5%	68
事業内容を知りたい					56	29	11.1%	85
近隣の相談機関紹介希望	6	6	8	21	36	14	5.3%	91
就労・就学について	31	37	22	26	13	14	5.3%	143
医療機関を紹介してほしい	14	6	26	5	13	8	3.1%	72
当事者の会を紹介してほしい	5	1	4	1	2	1	0.4%	14
家庭内暴力の対応	4	5	13	2	5	0	0.0%	29
親の会を紹介してほしい			6	2	1	0	0.0%	9
その他	24	14	7	54	27	11	4.2%	137
計	146	122	131	167	323	262	100%	1,151

○相談理由は多岐にわたっている。今年度は、「話を聞いて欲しい」、「来所相談の希望」といった相談が増加している。

また、「その他」には、「相談の中断」、「他機関からの照会」などがあげられる。

（※平成25年度より相談目的の分類を追加している）

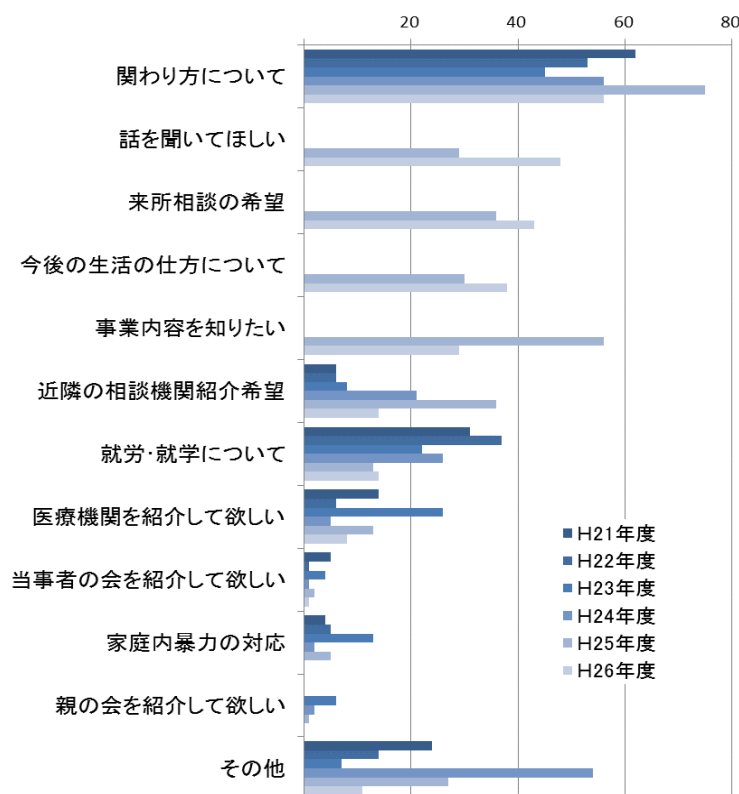


図10 相談目的の推移（年度別）

### (10) 他機関への相談経験の有無

	件数	構成比(%)
相談経験あり	140	53.4
相談経験なし	26	9.9
不明	96	36.6
計	262	100

- 当センターへ相談する以前に、他機関へ相談している方が 140 件（53.4%）であり、当センターに相談につながる前に、すでにひきこもり状態について相談していることが伺える。
- 主な相談先は、医療機関が最も多く（80 件）、次いで区役所・役場（18 件）、精神保健福祉センター（道・札幌市）（18 件）、若者サポートステーション（14 件）、保健所（13 件）、親の会（13 件）、カウンセリング機関（12 件）などであった。
- 「不明」には、問い合わせなどで当事者が確定しない相談が 18 件あった。

### (11) 相談の継続性

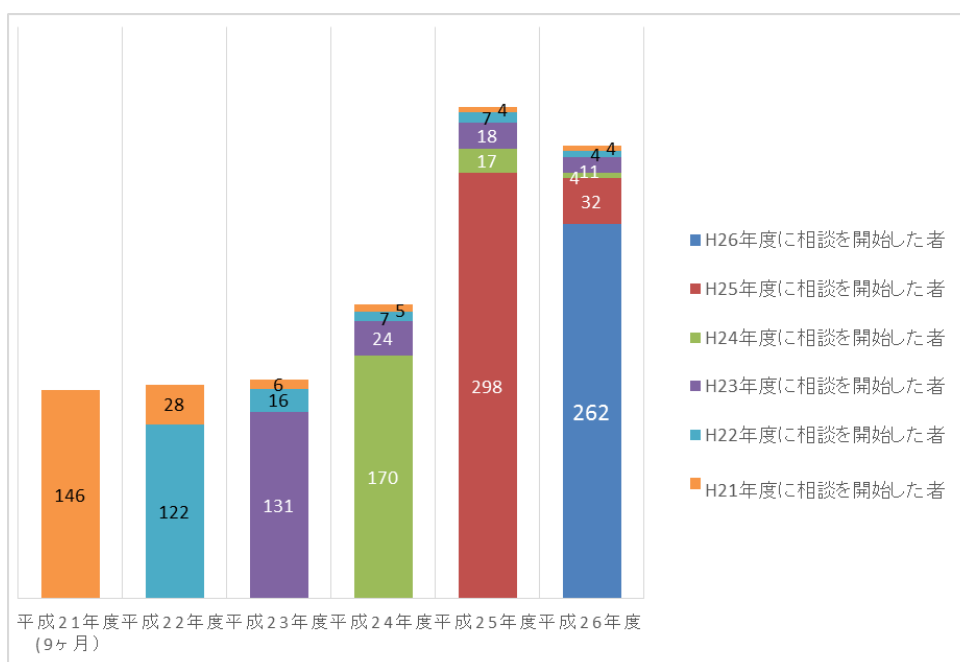


図 1 1 相談開始年度別相談実人数（年度別）

- 相談者の約 8 割は年度内に相談を終結しているが、年度をまたいだ相談も見られている。就労・就学や通院などひきこもり状態から脱したケースもあるが、相談の継続をいかに図り、相談後の転帰の把握することが今後の課題と考えている。

## (12) 相談転帰

### 初回相談の転帰

転帰	件数
終了	157
助言終了	132
関係機関紹介	15
受診勧奨	3
メール返信	7
来所を指導	62
電話相談継続	33
その他	10
総計	262

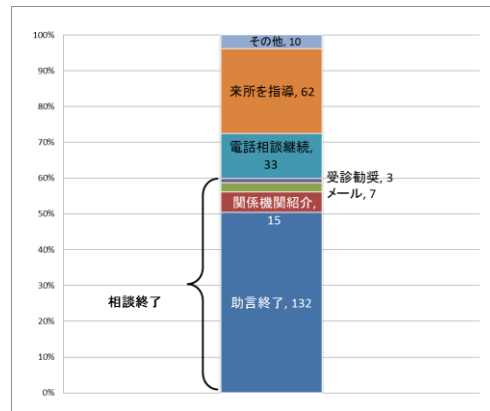


図 1 2 初回相談の転帰

- 初回相談で終了したケース 157 件 (59.9%) で、そのうち助言終了が 132 件であった。
- 電話相談継続が 33 件、来所に切り替えた相談が 62 件で計 95 件 (36.2%) が継続相談を要すると判断し対応した。
- 助言終了後も再度、電話相談につながるケースもあった。

## (13) ひきこもり相談から当施設精神科デイケアを活用したケース

### ア. 精神科デイケアへの通所

	人数
平成 26 年度	5
平成 21～25 年度	19
計	24

- ひきこもり相談から当施設デイケア通所につながったケースは当年度 5 名であり、通算 24 名となっている。
- 平成 26 年度に通所開始となった 5 名のうち 1 名は、平成 24 年度からひきこもり相談を継続しており、本人と関わり始めてからデイケア利用に至るにはある程度の期間を必要とした。
- デイケア通所した 24 名のうち、現在 7 名がデイケアから次のステップへ移行している。  
(一般就労での障害者雇用 1 名、就労継続支援事業所 A 型就労 1 名、就労継続支援事業所 B 型就労 2 名、就労移行支援事業所 1 名、就学 2 名)
- デイケア通所した 24 名のうち、4 名は治療の必要性が顕在化し、医療機関へつながった。

イ. ひきこもり外来状況

年 度	延べ回数	実人数
平成 26 年度	95 回	17 名
平成 21 年～25 年度	90 回	21 名

○平成 26 年度では、ひきこもり相談からひきこもり外来につながったケースは 17 名であった。

## 2. 支援ネットワークの構築等

関係機関に対する事業概要説明をはじめ支援機関との支援者連絡会、研修会参加などにより各支援機関との情報共有、連携を行ってきた。

支援ネットワークの構築として、他の研修と連携し、「北海道ひきこもり成年相談センター」の相談会を行った。状況は以下のとおりである。

### (1) ネットワーク構築状況

月	日	実施内容	備考
5	13	NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク、全国引きこもりKHJ親の会家族会連合会北海道「はまなす」親の会、スカイプ会議	2名
6	4	生活・就労支援センターあつべつ職員来所	2名
7	4	医療法人横田会理事長来所（ひきこもり地域支援センター施設見学）（熊本県）	1名
8	20	北海道精神保健福祉センター青年期親の会来所（施設見学）	12名
10	27	札幌市議会議員来所	1名
12	16	NPO法人ワーカーズコープ職員来所	1名
12	25	北海道NPOサポートセンター事業説明	1名
12	25	NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク副理事長来所	1名
12	17	北海道環境生活部くらし安全局道民生活課青少年グループ主幹来所	1名
1	28	生活・就労支援センターとよひら職員来所	2名
3	2	北海道保健福祉部訪問	3名
3	5	生活・就労支援センターあつべつ職員来所	2名

(2) ひきこもり支援者連絡会議実施状況

月	日	実施内容	備考
1	16	ひきこもり支援者連絡会議（浦河保健所）	
1	16	ひきこもり支援者連絡会議（静内保健所）	

(3) ひきこもり支援関係者研修会実施状況

月	日	実施内容	備考
6	25	平成26年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会第1回 主催 北海道ひきこもり成年相談センター	インターネット配信及び DVD視聴 128件
10	8	平成26年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会第2回 主催 北海道ひきこもり成年相談センター	インターネット配信及び DVD視聴 192件
12	10	平成26年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会第3回 主催 北海道ひきこもり成年相談センター	インターネット配信及び DVD視聴 96件
3	11	平成26年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会第4回 主催 北海道ひきこもり成年相談センター	インターネット配信及び DVD視聴 59件



## (4) 講師派遣等状況

月	日	実施内容	備考
6	2	北海道保健福祉部福祉局福祉援護課福祉援護課訪問 福祉・介護人材雇用推進事業（緊急雇用創出推進事業）について	2名参加
6	13	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	2名参加
6	13	子ども若者支援セミナー 「ひきこもり相談～よくある場面で失敗しないコツ」 主催：札幌市若者支援総合センター	講師1名
7	7	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会会議（神戸市）	1名参加
8	27	石狩市こども・若者支援地域協議会設立総会	1名参加
8	28	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	1名参加
9	18	北広島市家族学習会 「ひきこもりかぞくの対応」	講師1名
9	22	ひきこもり支援講演会 主催：留萌市 「ひきこもりの理解と支援～今、私たちにできること～」	講師1名
10	15	ひきこもりピアサポート養成研修事業	講師1名
10	17	苫小牧家族会まゆだまの会学習会	講師1名
10	28	石狩市こども・若者支援地域協議会	1名参加
11	6	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	1名参加
11	14	旭川市保健所ひきこもり講演会	講師1名
11	19	北海道地域若者サポートステーション連絡会議	1名参加
11	19	北海道子ども・若者支援地域協議会	1名参加
12	1	精神障がい者リハビリテーション推進北海道フォーラム 講演「ひきこもりと心のやまい」	講師1名
12	4	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会会議（横浜市）	1名参加
1	13	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	1名参加
1	16	ひきこもり支援者連絡会議（浦河保健所）	2名参加
1	16	ひきこもり支援者連絡会議（静内保健所）	2名参加
2	6	石狩市こども・若者支援地域協議会	1名参加
3	10	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会代表者・実務者会議	1名参加

(5) 外部研修参加状況

月	日	実施内容	備考
6	13	子ども若者支援セミナー 「ひきこもり相談～よくある場面で失敗しないコツ」 主催：札幌市若者支援総合センター	3名参加
7	7	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会・研究協議会 研修会（神戸市）	1名参加
8	27	石狩市こども・若者支援地域協議会記念講演 「家庭と学校における非行・虐待等の対応について」	1名参加
8	28	子ども若者支援セミナー「若年無業者の孤立と希望」 主催：札幌市若者支援総合センター	1名参加
8	30	講演会「人と人との響き合いの大切さ」 主催：生活・就労支援センターあつべつ	2名参加
9	6	子ども若者支援セミナー 「少年鑑別所法の新しい取り組みについて」 主催：札幌市若者支援総合センター	1名参加
10	25	ひきこもり学習会「ひきこもりの回復」 主催：全国引きこもりKHJ親の会家族会連合会北海道「はまなす」	2名参加
10	25	「北海道ひきこもり居場所支援プログラム開発」のための 困難事例検討会	1名参加
11	6	子ども若者支援セミナー 「生活困窮者の支援について」 主催：札幌市若者支援総合センター	1名参加
11	8	道産こもり179大学	2名参加
12	4	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会 研究協議会 研修会（横浜市）	1名参加
1	13	子ども若者支援セミナー 「不登校・ひきこもりの心理的背景」 主催：札幌市若者支援総合センター	2名参加
2	6	石狩市こども・若者支援地域協議会講習会 「こども、若者のメンタルヘルスと効果的な支援のあり方」	1名参加

### 3. 普及啓発

#### (1) 普及啓発実施状況

月	日	実施内容	備考
4	15	北海道新聞記者取材（ひきこもり外来）	
5	27	北海道文化放送取材	
5	27	北海道文化放送	
6	18	NHK取材打ち合わせ	
6	23	NHK取材	
6	25	インターネット番組「おこもり総研ひきペディア」放送	インターネット配信 及びDVD視聴 346ヶ所
6	25	NHK取材（おこもり総研ひきペディア）	
7	4	NHK取材	
7	10	NHK取材	
7	16	NHK取材	
7	18	NHK「北海道クローズアップ」放送	1名出演
10	18	インターネット番組「おこもり総研ひきペディア」放送	インターネット配信 及びDVD視聴 289ヶ所
11	19	北海道新聞取材	
12	10	インターネット番組「おこもり総研ひきペディア」放送	インターネット配信 及びDVD視聴 143ヶ所
3	11	インターネット番組「おこもり総研ひきペディア」放送	インターネット配信 及びDVD視聴 135ヶ所
3	28	ひきこもり講演会&相談会実施 講演「ひきこもりについて」	参加者 52名

## (2) リーフレットの作成配布

講演会や各種会議などを活用し、ひきこもり本人及び家族に向けたリーフレットを配付した。

月	日	実施内容	備考
5	26	ひきこもりリーフレット配布	ひきこもり研修会案内先へリーフレット512部送付
6	13	ひきこもりリーフレット及びひきこもりサポーター地域総合育成事業テキスト配布	セミナーにてリーフレット35部、テキスト35部を配布
11	14	ひきこもりリーフレット配布	旭川市保健所講演会参加者へリーフレット120部配布
11	14	ひきこもりリーフレット送付	ひきこもり研修会案内先へリーフレット1059部送付
12	1	北家連ひきこもり講演会	リーフレット100部配布
3	28	ひきこもりリーフレット及びひきこもりサポーター地域総合育成事業テキスト配布	講演会にて、リーフレット60部、テキスト40部を配布

## (3) インターネット利用（ホームページ）による情報発信

「ひきこもり」に対する理解と支援団体、相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

ひきこもり相談ホームページアクセス件数

年度	件数	備考
平成26年度	13,865件	
25年度	11,431件	
24年度	8,032件	
23年度	4,232件	
22年度	3,220件	
21年度	3,109件	(9ヶ月分)

○過去5年間と比較して、ホームページアクセス件数が増加している。その要因としては、研修や啓発普及活動によって、ひきこもり成年相談センターが周知されつつあることがうかがえる。